

令和7年度シラバス（国語） 学番（46）新潟県立吉田高等学校

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年【必修】
使用教科書	東京書籍出版『新編言語文化』				
副教材等	尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 古語辞典 国語辞典				

1 学習目標

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成します。 ① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。 ② 自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。 ③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーとなり得る能力を育成します。 ④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。 ① 人権教育、同和教育を計画的に、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。 ② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組めます。 ③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。 ④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の点を踏まえ、 ・定期考査・課題テスト、小テスト等の分析 ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の点を踏まえ、 ・定期考査・課題テスト、小テスト等の分析 ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の点を踏まえ、 ・授業や学習活動への取組の観察 ・課題やプリント、ノート等、提出物の取組状況と内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる（75%以上）」「B：おおむね満足できる（40%以上）」 「C：努力を要する（39%以下）」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は、授業で説明します。		

6 学習計画

	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1 古文入門	6h B「読むこと」	「古文に親しむ」 「兄のそら寝」 古文学習のしるべ1・2 「古文の言葉と仮名遣い」「古語を調べるために」	・古文と現代文の違いについて確認する。 ・歴史的仮名遣いに慣れる。 ・現代語訳する際の注意点を理解する。 ・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。	6	・定期考査、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
5	1 随筆	3h B「読むこと」	「さくらさくら」/俵万智	・随筆を読み、筆者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・現代の言語文化に息づいている古典の常識について興味を持つ。	3	・定期考査、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
	定期考査	1h B「読むこと」			1	・定期考査の分析
	言語活動	4h B「読むこと」	言語活動 『花』といえば『桜』？」	・現代の言語活動に息づいている古典の常識について興味を持つ。	4	・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況
	1 漢文	5h B「読むこと」	「訓読の基本」 故事成語	・訓読の基本を知り、漢文の決まりや特色を理解する。	5	・定期考査、小テスト ・課題やプリント、ノート等、

6	入門		「五十歩百歩」	・格言や故事成語を読み、漢文の世界に親しむ。 ・漢和辞典を活用し、漢字の読みと意味の関係について理解する。		提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
7	定期 考查	1 h B「読むこと」			1	・定期考查の分析
	1 漢文 入門	4 h B「読むこと」	故事成語 「借虎威」	・訓点に従って正確に読めるようにする。 ・書き下し文のきまりを確認する。 ・正確に現代語訳し、内容を理解する。 ・「寓話」を理解する。	4	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
8	4 小説 2	6 h B「読むこと」 1 h A「書くこと」	「羅生門」 ／芥川龍之介	・描かれている内容から主題を読み取り、小説を深く味わう。 ・元となった古典の作品と読み比べ、理解を深める。 ・「老婆」の主張についてどのように考えるか。賛成・反対の立場を明確にして意見を書く。	7	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
9						
10	古文 文法 事項	2 h 「読むこと」	古文学習のしるべ3 「用言の活用」	・古典を読むために必要な文語文法のきまりや古典特有の表現などについて理解する。	2	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
	定期 考查	近代以降1 h B「読むこと」			1	・定期考查の分析
	古文 2 随筆	3 h B「読むこと」	徒然草「亀山殿の御池に」	・古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に捉える。	3	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
11	古文 4 物語	7 h B「読むこと」 1 h A「書くこと」	伊勢物語 「筒井筒」 言語活動 和歌を自分の言葉で書き換える	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を味わう。 ・和歌を現代のコミュニケーションツールで書き換えることを通して、和歌の役割について理解を深める。	8	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析

12	定期 考查	古典 1 h B「読むこと」			1	・定期考查の分析
	2 漢詩	4 h B「読むこと」	絶句と律詩 「春暁」孟浩然 「贈汪倫」杜甫 「春望」杜甫	・漢詩の形式やきまりを理解し、漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、優れた表現を味わう。	4	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
1	現代 文 3 詩歌	3 h B「読むこと」	「柳あをめる」 (短歌) 「雪の深さを」 (俳句)	・短歌や俳句の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取ったり、句の主題を読み取ったりする。	3	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
	古文 5 紀行	4 h B「読むこと」	奥の細道 「平泉」	・構成に注目しながら、作品に込められた思いを読み取る。 ・作品や文章の成立した背景や、他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・地域の文学碑を調べて、レポートを書く。	6	・定期考查、小テスト ・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況、振り返りの分析
	2	2 h B「書くこと」				
	定期 考查	1 h B「読むこと」			1	・定期考查の分析
3	古文 3 詩歌	3 h B「読むこと」 1 h A「書くこと」	「折々のうた」 大岡信 古典学習のしるべ5 言語活動 短歌を作る	・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えて、内容を解釈する。 ・特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	4	・課題やプリント、ノート等、提出物の内容の確認 ・授業中の取組の観察、課題の取組状況

計64時間（55分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計（55分授業）

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 5時間	B「読むこと」 59時間
-----------------	----------------	-----------------